



令和6年度発掘速報

赤井官衙遺跡で 新たな材木堀発見！

赤井地区では昨年度に引き続き、10月から1月にかけて赤井官衙遺跡の圃場整備事業に伴う発掘調査を実施しました。

国指定史跡・赤井官衙遺跡は、古代の役所である牡鹿柵または牡鹿郡家と推定されている遺跡で、東北地方の蝦夷政策の拠点として軍事・行政を司った重要な城柵・官衙遺跡として全国的に知られています。調査では牡鹿柵の範囲を確認するために、外郭施設である材木堀と大溝の位置を特定することが目的の一つとなっています。昨年度の発掘調査では、遺跡の北部において材木堀と大溝が見つかっていました。本年度はその延長線上にあたる北部と、南部を対象として調査をおこないました。



調査の結果、これまで材木堀が見つかっていなかった遺跡の南部西側と北部西側において、新たに材木堀と溝跡が確認されました。左の写真は南部西側で確認されたものです。材木堀に使用された丸太材が東西に一直線に並んだ状態で残されていることが分かります。また、写真下のように、材木堀は2条見つかっています。通常、城柵・官衙遺跡は材木堀または築地堀によって周囲が囲われますが、同時期に複数の堀がつくられることはありません。そのため、2条の材木堀が見つかった理由はおそらく建て替えによるものであり、それぞれ異なる時期に造営されたと考えられます。これら2地点を含む遺跡の西側は、古代には河川（江合川）が流れていたと考えられている場所なのですが、その河川跡の内部から材木堀が見つかったため、当時の地形およびその移り変わりを考える上でも重要な発見と言えます。



2条の材木堀（写真奥）が並んで検出された状況

東西に一直線に並んだ丸太材の列

発掘現場より

寒さと氷とたたかう冬の発掘調査

寒さの厳しい冬の発掘調査はとても過酷なものです。12月に入って気温もかなり低くなり、日中でも2～3℃になる日がある中で調査を進めています。風が強い日には体感温度が氷点下になるので、寒さ対策は必須！！全身にカイロを張り付けて作業している人も…。



調査区に張った氷の塊

赤井地区は地下水位が高いので、数十センチ掘り下げると水が湧き出てきます。夜間に氷点

下まで気温が下がった次の日の朝には、調査区に氷が張っていることも。もちろん氷が張った状態では調査ができませんので、まずは氷をどけて、その後に排水ポンプで水を抜いてから調査をおこないます。他にも調査区



絶えず湧き出てくる地下水をくみ上げながらの発掘調査

内に霜が降りたり、霜が解けて土層が見にくくなったりして、図面を作成する作業が難航する場面も何度かありましたが、無事に調査を終えることができました。

information

01

企画展は2月24日まで！

現在資料館2階で開催中の「牡鹿柵造営だいたい1300年企画展」は2月24日までです。まだご覧いただいていない方はぜひご来館ください。



02

SNS やってます！

縄文村ではInstagram、Facebookをやっています。縄文村の日常やイベントの情報など、日々更新中です。ぜひご覧ください！

フォロー大歓迎♪



Instagram

Facebook

